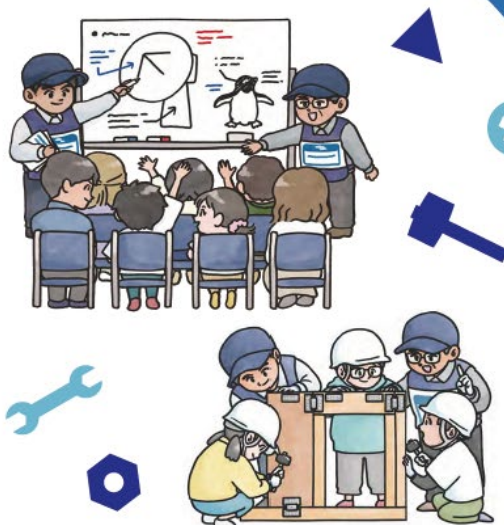


2026年10月30日

南極観測事業を支える「通信」と「建築」の重要性を次世代へ伝える

「KDDI南極アカデミー2026」に協力

- KDDIが主催する体験型学習イベント「KDDI南極アカデミー2026」にミサワホームが協力
- 南極地域観測隊を経験したKDDI社員が、過酷な南極・昭和基地での暮らしや観測活動を支える技術を解説
- 極寒の地で安全な暮らしを支える建物の工夫をチームで学ぶ、ワークショップ「南極建物組み立て体験！」を実施



協力：ミサワホーム株式会社

KDDI南極アカデミー2026

「つくる、つなぐ、南極。」

2026年11月21日[土] 13:00~15:05

場 所	LINK FOREST3階 研修室
参加人数	子ども32名
参加費用	無 料
対 象	小学生以上の子どもの保護者 (親子参加推奨)

ミサワホーム株式会社（代表取締役社長執行役員 作尾徹也 以下、ミサワホーム）は、KDDI株式会社（代表取締役社長 松田浩路 以下、KDDI）が2026年11月21日（土）に「KDDI MUSEUM」（東京都多摩市）で開催する体験型学習イベント「KDDI南極アカデミー2026」に協力し、体験型ワークショップ「南極建物組み立て体験！」を担当します。

本イベントでは、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所（以下、極地研）に出向し、南極地域観測隊に参加したKDDIの社員が講師を務め、過酷な極限環境における活動や暮らし、それを支える「通信」の仕組みを分かりやすく解説します。また、通信衛星を活用した8K映像のライブ中継技術のデモンストレーション^{※1}を行い、現地の観測隊員とリアルタイムでつなぐことで、遠く離れた南極の“今”を臨場感とともに体感していただきます。あわせて、当社が担当するワークショップを通じて極限環境に挑み続ける「建築」の技術や工夫を子どもたちに伝えます。

実体験を通じた学びの場を提供することで、次世代の育成と地球環境への理解促進に貢献するとともに、極地科学の発展と持続可能な社会づくりを支援してまいります。なお、参加予約は2026年10月30日（金）午前11時より専用サイトにて開始します。

■背景と両社の取り組み

南極大陸は観測の空白域の一つであり、未来の地球環境を予測するうえでの情報源として重要な場所です。世界各地で異常気象などが発生するなか、南極観測を通して地球の気候変動を理解し、未来を予測することが期待されています。南極地域観測隊には、昭和基地を維持しながら1年を通して観測を続ける「越冬隊」と、夏の間に観測や

基地の建設、物資輸送などを実施する「夏隊」がいます。南極は、地球環境の変化を観測する重要なフィールドである一方、過酷な環境下で観測活動が続けるためには、日本や世界とつながる「通信」と、人々の安全・安心な暮らしを支える「建築」が欠かせません。本イベントでは、KDDIとミサワホームがそれぞれの専門性を活かし、南極観測事業を支える2つの社会インフラをテーマに掲げ、子どもたちにその役割や技術の価値を楽しく学び、体感してもらうことを目指します。

南極×KDDI

KDDI（前身企業の国際電信電話株式会社〔KDD〕を含む）は、1956年に第1次南極地域観測隊が派遣されて以来、短波無線や各種通信衛星で南極と世界をつなぎ、観測への貢献を続けてきました。2004年以降は、毎年社員1名が極地研に出向し、観測隊員として昭和基地の通信・LAN設備の構築・保守を担っています。

南極×ミサワホーム

ミサワホームは1968年の「第10居住棟」以降、観測隊員の活動や生活を支える建物を受注し、その実績は累計37棟・延床面積約6,700㎡^{※2}に及びます。納入した建物の多くに採用されている木質接着複合パネルは、徹底した品質管理体制の下、外装・断熱材・内装があらかじめ工場ですべて一体生産されます。そのため、建築経験のない隊員が半数以上を占めるなかでも、短い夏の期間に容易に組み立てることができ、かつ厳しい昭和基地の気候に耐え抜く高い性能を備えていることが特長です。1975年からは建築のプロとして社員を極地研に出向させたうえで観測隊へ派遣し、延べ31名が現地での建設やメンテナンスに携わるなど、南極の建物建設をサポートし続けています。

■「KDDI南極アカデミー2026」開催概要

開催日時	2026年11月21日（土）13:00～15:05（予定）
会場	LINK FOREST（東京都多摩市鶴牧3丁目5番地3）3階研修室
プログラム	1. 南極観測を知ろう ～観測の目的と、それを支える建築・通信～ 2. 南極の氷体験（本物の南極の氷に触れる体験） 3. 南極観測を支える通信の仕組み（衛星通信の特徴や国内との違いなどを学習） 4. ワークショップ「南極建物組み立て体験！」（協力：ミサワホーム） 5. 南極とつないだ8K映像ライブ中継デモンストレーション（3D写真・3Dモデル生成） ^{※3}
募集人数	子ども 先着32名（小学生以上推奨、子ども1名あたり保護者2名まで同伴可能）
参加費	無料
予約方法	専用サイトより事前予約（2026年10月30日午前11時受付開始） https://www.kddi.com/museum/program/event/academy202611/

同日10:00～16:30（最終入場16:00）には、KDDI MUSEUM（LINK FOREST 2階）の特別無料見学会（事前予約不要）が実施されます。同日が最終日となる特別企画展「動く・転がる・つながる からくりの科学展」もあわせてご覧いただけます。詳細は特別企画展 公式サイトよりご確認ください。

特別企画展 公式サイト：<https://www.kddi.com/museum/program/special/karakuri2026/>

■ワークショップ 「南極建物組み立て体験！」について

本ワークショップでは、子どもたちがヘルメットをかぶり、チームで協力しながら南極・昭和基地の建物にも採用されている「木質パネル接着工法」の技術を肌で学びながら、高さ約140cmの基地の組み立て体験に挑戦します。実際に南極で使用された金物などにも触れながら、極寒の地で人々の暮らしを支える建築の工夫や知恵を楽しく学ぶことができます。完成後は「ちびっ子南極大工認定証」をプレゼントします。



ワークショップ 実施風景

(参考)

■KDDI MUSEUMについて

KDDI MUSEUMは、日本の国際通信の始まりから現代に至るまでの通信の歴史を、実物資料・映像・体験展示を通して体系的に紹介する企業博物館です。通信が人や社会をつなぎ、社会を支えてきた役割と、その背景にある技術的・人的な挑戦を可視化しています。

併設するKDDI ART GALLERYでは、先端技術と対比した「感性との出会い」をコンセプトに、自然や地球をテーマとする日本画・洋画・ガラス工芸を紹介し、鑑賞者に感動や新たな発想のきっかけをもたらします。科学・産業と芸術が隣り合う空間として、社会教育および文化振興の一端を担うことを目指しています。

所 在 地	東京都多摩市鶴牧3丁目5番地3 LINK FOREST 2階
営 業 時 間	月曜日～金曜日、第2土曜日 10:00～16:30 ※来館には事前の予約が必要です。予約・料金の詳細はKDDI MUSEUM公式サイトにてご確認ください
休 館 日	土曜日（第2土曜日を除く）・日曜日・祝日・年末年始および当館が定める休館日
入 館 料	一般300円（大学生以下・障がい者無料）
公 式 サイト	https://www.kddi.com/museum/

以 上

※1：南極との8K映像ライブ中継デモンストレーションは天候などの影響により中止になる場合があります。

※2：2026年4月末時点での実績。現在建設中の夏期隊員宿舎を含む。

※3：2026年6月24日 株式会社KDDI総合研究所 プレスリリース。

「動画から必要な画像のみを選定 3DGSの3Dモデル生成を高速化する技術を開発」

<https://www.kddi-research.jp/newsrelease/2026/062401.html>

この件に関する問い合わせ先

ミサワホーム(株) 管理本部 広報・渉外部 コーポレートコミュニケーション課 有川太郎 岩井須美佳

TEL：03-3349-8088／FAX：03-5381-7838／E-mail：koho@home.misawa.co.jp

未来をまちづくる **PLT** Group

プライム ライフ テクノロジーズグループは、パナソニック ホームズ、トヨタホーム、ミサワホーム、パナソニック建設エンジニアリング、松村組を事業会社として「未来をまちづくる PLT」をコーポレートメッセージに掲げ、顧客課題と社会課題の解決に取り組んでいます。

※プライム ライフ テクノロジーズ(株)は、2020 年 1月にパナソニック（現パナソニックホールディングス）とトヨタ自動車が発立し、三井物産を加えた 3 社を株主とする会社です。